

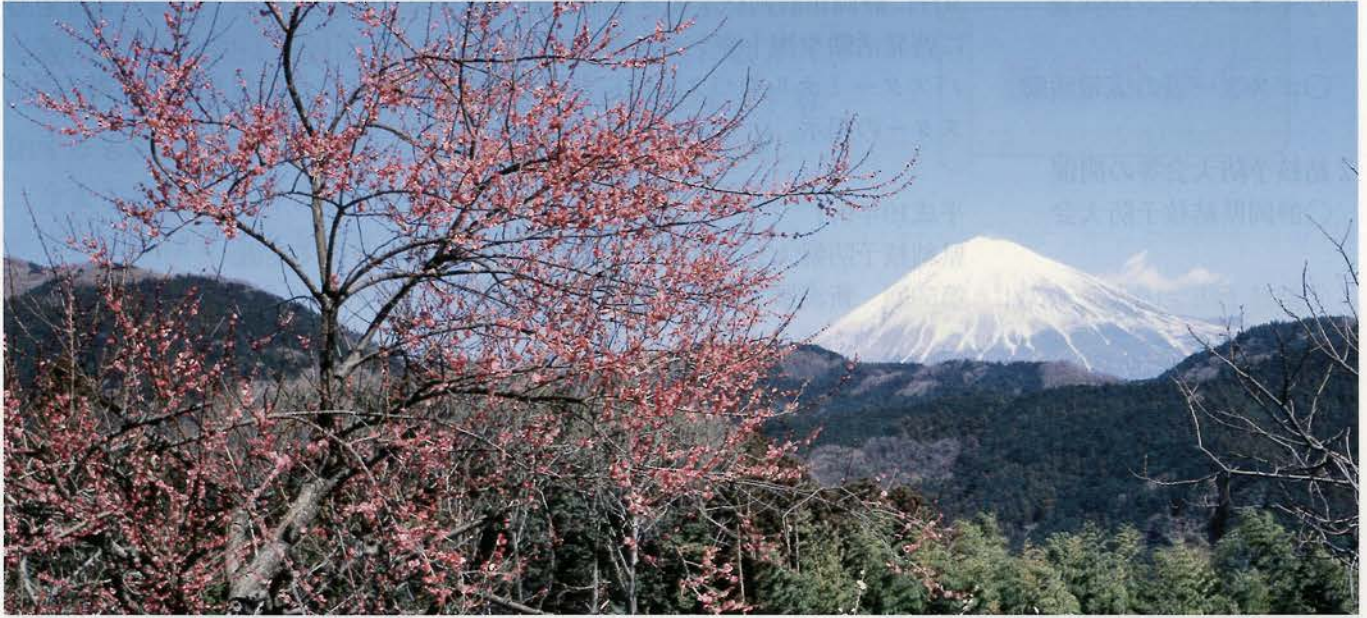


結核しずおか

20号2007年4月23日

発行

財団法人 結核予防会静岡県支部
〒420-0915
静岡市葵区南瀬名町6-20
TEL 054-261-2512
FAX 054-261-9474
Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp
発行責任者 増田利男
印刷 明和印刷株式会社



巻頭言

静岡県結核予防婦人会会長に就任して

昨年6月県結核予防婦人会総会において会長に就任いたしました。歴史ある会の重責を担うことになり、身の引き締まる思いです。

結核を取り巻く状況は、これまでの結核対策の成果により徐々に低減し、平成17年の罹患率は人口10万対22.2になりましたが、結核患者の高齢化の進行が著しく難治度が増す中で、20歳30歳代の罹患率が低減しない、結核に対する関心の低下による受診の遅れ等による集団感染の発生など未だ危惧される状況にあります。

こうした中、結核予防婦人は各種団体と力を合わせて結核の撲滅、公衆衛生の向上に努力をし、健康で明るい郷土、豊かな家庭をつくることを目的としており、各地域において、検診事業の推進、結核予防のための啓発事業の推進等の活動を展開してまいりました。特に、複十字シール募金運動については、会の皆様の大変なご努力により、その結果は常に我が国1位を占めているなど実績を残しております。

昨年、当会の会則も、婦人、女性を中心に組織するとしていたものを、趣旨に賛同する場合には性別を問わないと、変更しその参加対象を幅広くしたところであります。今後は多くの皆様の御支援をいただき、今まで以上に活発な運動を展開したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



静岡県結核予防婦人会会長
財団法人結核予防会理事
土屋 貞代

平成19年度一般会計事業計画書



19年度の事業計画について、主なものについてお知らせします。

1 結核を中心とする疾病の予防思想の普及

- 全国結核予防週間 平成19年9月24日(月)～30日(日)
- キャンペーンの実施 9月に静岡市駿河区アピタ静岡施設内及び県下各地で結核予防婦人会を中心に啓発活動や複十字シール運動の展開。
- ポスター等の広報活動 バスターミナルやバス車内における電光掲示板による広報や関係機関へのポスターの掲示。

2 結核予防大会等の開催

- 静岡県結核予防大会 平成19年9月
県結核予防婦人会と共催。静岡県、市町の協力を得て実施。
- 結核予防全国大会 第59回 新潟県で開催。(開催時期未定)

3 広報資料の作成、配布

- 「結核しずおか」を年2回3000部発行、結核予防の普及、啓発。
- 「複十字」(結核予防会本部作成)
「健康の輪」(全国結核予防婦人団体連絡協議会作成)の配布。



4 平成19年度検診事業計画

- 学校検診 44,700人
- 住民検診 106,600人(胸部・肺がん・胃がん・乳がん検診)
- 事業所検診 67,000人(結核・肺がん・胃がん検診)
- 施設検診・定期外検診 5,100人

平成18年度検診結果報告(速報)



18年度検診撮影数

種別	間接撮影	直接撮影	肺がん検診	喀痰検査	胃がん検診	乳がん検診
学校検診	46829	98			61	
住民検診	92534	1231	67439	1209	9789	2778
事業所	55798	2565	52	6	1854	
総合検診	8200	3924			659	
定期外検診	0	1834			0	
施設検診	2331	923			262	
合計	205692	10575	67491	1215	12625	2778

○平成18年度は、乳がん検診車(マンモグラフィ)を購入し女性スタッフで住民検診を各公民館で実施しました。新規事業にもかかわらず開業医院及び町内会のご理解で初年度は、2778名が受診され好評でした更に、次年度は、PRを幅広くし受診率の向上に努めたいと思います。

○検診人員296千人

内訳(胸部間接205千人、胸部直接10千人、肺がん検診67千人、喀痰細胞診1千人、胃がん検診、11千人)

○18年度、デジタル胃検診車を購入し精度が大好評でした。マンモ検診・胃がん検診に是非多くの皆様の御利用をお待ちしています。

よろこばれるリフト付き胸部検診車

当支部では平成16年10月に車椅子のままで撮影できる検診車を導入しました。

社会の高齢化に伴い、複数の異業者企業によってケアセンター等が開設されています。特別老人養護施設は、現在全国でも38万人が入居されており、入居待ちの老人も同じ数の人がいるといわれております。在宅介護も70数万人の方々が、介護を受けケアを含めると、今後ますます増加するものと考えられます。

今まで施設の入所者等で体の不自由な方は、一般的な検診車、または介護車等で病院まで出向いて検診を受けていました。リフト付き検診車は、専用の車椅子に乗り換えて介助の方とリフト車に乗り車椅子に乗ったままで撮影できるため、とても楽になったと喜ばれています。今後この検診車の依頼は年々増加するものと考えます。現在当支部には1台のみの保有ですので機器の保守点検はしっかりと実施しております。これからこのような検診車の導入が検討課題です。

※基本は車椅子優先ですが、一般の方にも対応できます。

各施設から



検診時間

入所者50名	}	約3時間
直接(歩行可) 12名		
車椅子 30名		
ポータブル 8名		



第11回結核予防関係婦人団体中央講習会に参加して

● 静岡県結核予防婦人会 富士支部支部長 渡辺史江 ●



平成19年2月14・15・16日の3日間、東京芝公園隣接のメルパルク東京を会場に開催されました。参加者は北海道から沖縄まで107名でした。静岡県では一人の参加でしたが、本部スタッフ・講師陣により充実した講習内容であり、他県の皆さんと親しく研修交流ができ幸いでした。紙面の都合により簡単になりますが、経過の報告を致し、お礼にかえさせていただきます。

第1日目の開講式では正面には白地に赤の複十字のマークの旗が掲げられ、厳かで身の引きしめる思いでした。主催者の結核予防婦人会中畔都舎子会長・結核予防会青木正和会長の挨拶があり、その中で、4月から昭和26年以来、50年の結核予防法から感染症法に変わり、健康診断から予防診断へ、早期発見から健康予防へと今まさに新しく歩むことになる。本会では動いているうねりを感じ、新しい知識を学び、目的を共有してほしいと。

ご臨席いただきました結核予防会総裁、秋篠宮妃殿下より、正しい知識と啓発を願いますとのあたたかいお言葉があり励みとなりましたし、式後は記念の写真にもご臨席いただきました。

来賓としまして厚生労働省外口崇健康局長が挨拶され、終わりに「健康の歌」を声高らかに斉唱しました。

その後の講習内容は

講演1 結核予防婦人会について	結核予防婦人会事務局長	山下 武子氏
講演2 メタボリックシンドロームってなあに？	結核研究所保健看護学科長	永田 容子氏
講演3 最も新しい結核の話	結核研究所副所長	加藤 誠也氏

第2日目の早朝は増上寺の歴史・説法・経蔵の自由参加の散策は心身共にさわやかになりました。

講演4 複十字シールでコミュニケーションを!! 結核予防会資金課長 佐藤 利光氏
楽しいひと時は声楽家松田敏江先生による「しあわせのうた」の歌唱指導があり、そのあと若い声楽家のミニコンサートとなりました。アンコールの拍手が鳴りやみませんでした。

講演5 肺の生活習慣病 (COPD)	日本ベーリンガーインゲルハイム	加藤 久幸氏
講演6 “情けは人のためならず”	結核予防会国際部長	小野崎 郁史氏

—世界に展開する結核プロジェクト—

2006年カンボジア結核対策スタディーツアーに参加した2名の報告により国際的な対策への推進の重要性を感じました。

2時間半の班別の情報交換会では私がB班でしたが、時間が足りない程、結核予防活動の複十字シールキャンペーンについてや、また会の役割として何ができるか考え熱く話し合いました。

第3日目は前日の情報交換会の内容が班別に発表されました。

静岡県は、講習会ノートにも記されています平成17年度複十字シール運動募金、全国支部の実績では全国第五位、全国婦人会の実績では全国第一位を占めていることを知り、今までの会の取り組みに敬意を表しますとともに、今後会の一員として少しでも結核予防運動及び公衆衛生の向上を図る活動の推進に努力していこうと意を新たにしております。

今回、中央講習会に参加できましたことに心より感謝申し上げます。

第58回結核予防全国大会に出席して

第58回結核予防全国大会が、19年3月27日及び28日の両日、関係者多数の出席をいただき岡山市で盛大に開催されました。

内容的には、第1日の全国支部長会議、結核予防婦人団体連絡協議会総会及び研鑽集会を開催。

第2日目の大会式典は結核予防会総裁秋篠宮妃殿下御出席のもと功労者表彰が行われたほか、特別講演、決議及び宣言並びに次期開催地新潟市を決定し終了しました。

研鑽集会は

主題「すすめよう結核根絶に向かって

—結核予防法とともに歩んだ55年、そしてこれから—」として開催

座長の財団法人結核予防会研究所副所長の加藤副所長から、結核が著しいまん延のため「国民病」と呼ばれた昭和26年から、幾多の改正を経ながら対策の支柱であった結核予防法は、平成19年4月から感染症法に統合された。

戦後の高まん延状況から1970年後半まで年率約10%の速さで減少した。これは、間接撮影による定期健康診断やBCGのような革新的な技術とともに、官民一体となった「国民病」克服への熱意と努力がそれを支えた。しかし、我が国の結核は「中まん延状態」にあり、欧米の先進国と比べると30年程度遅れている。こうしたことから、感染症法のもと結核の根絶を目指して新たな歩みを始めなければならないと話されました。

基調講演は、財団法人結核予防会青木会長から、「世界から見た日本の結核—新たな時代の出発—」です。

世界の登録患者数は増え続けており、各地域でさまざまな問題をかかえている、日本の結核は減少したが、世界の中で日本の結核罹患率は世界199か国中の第71位であるが。大都市圏を除き結核は順調に減っていくだろう（油断大敵だが）。

国全体で見れば罹患率は現在人口10万対で22となっているが、これが10を割るのは約10年先と予想される、県によってはこれよりずっと早い県がでるかもしれない。

しかし、患者の高齢化の進行（高齢者の比率の増大、困難になる診断、治療）、若者の結核、ホームレス等社会的弱者の結核のほか登録患者中の外国人の割合が増えていることなど結核の状況は複雑、多様化してきている。このためにも、結核対策もこれまでの「何でもやる」から「何が重要か」を見極め対応することが大事であると提言されました。

盛りだくさんの中一部を報告しました。

（宮崎文考、近藤みのり）

秩父宮妃殿下と結核予防会・ 秩父宮御別邸と秩父宮記念公園の関わり

結核予防会の総裁は、秩父宮妃殿下から、平成6年5月12日の推戴式後、秋篠宮紀子妃殿下が総裁として、次々のご公務をこなされております。

歴史をたどってみると… 結核予防会とは… 昭和14年5月の結核予防会（本部）創立と同年9月20日に秩父宮妃殿下の総裁奉戴式後、長年にわたり総裁、名誉総裁として結核予防事業の推進のため献身的に尽くしてこられました。

総裁ご就任1年後の昭和15年に秩父宮殿下が結核を発病、妃殿下のご看病と主治医の努力にもかかわらず、薬石効なく、昭和28年1月4日に薨去された。

もっと早くから結核についての正しい知識をもっていたら、このような事態を防ぐことができたかもしれないと考えられた秩父宮妃殿下は、家庭の婦人が結核問題に関心を向けるよう、結核予防婦人関係団体の育成、強化には格別なご配慮を示されました。静岡県にも静岡県結核予防婦人会が組織され、昭和34年7月の創立大会には妃殿下をお迎えして行われました。



また、御殿場市に御別邸がある関係から、昭和40年7月に御別邸の隣に位置するY M C A 東山荘で第1回結核予防関係婦人団体幹部講習会が開催されました。

この講習会に強い関心をお示しになり、結核予防のために全国から御殿場の地に集まった婦人講習生を御別邸に招かれ一時を過ごされました。

その後、平成7年8月25日に秩父宮妃殿下が薨去なされて、御遺言により御別邸が御殿場市に遺贈され、平成15年4月より秩父宮記念公園として一般公開されました。

この公園は季節ごとに1月はクリスマスローズ、2月はユキツバキ、3月はスイセン・ユキワリソウ、4月はシダレザクラ・カタクリ、7月はアジサイ・カサブランカ、9月はリコリス、10月はキク、12月はカンツバキなどの草花が咲き、四季折々に楽しむことができます。



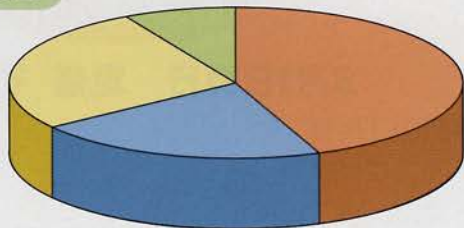
複十字シールの報告とお願い

平成18年度も結核撲滅のために複十字シール運動にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様のあたたかい善意により目標を上回る実績を得ることができました。心から感謝申し上げますとともに、平成19年度も変わらないご協力をお願いいたします。

平成18年度募金実績 **総額 1,881万円**
 (組織募金 1,692万円 郵送募金 189万円)



募金の使途



- 県結核予防婦人会助成費 44%
- 複十字シール製作費 21%
- 検診車購入積立資金 27%
- 普及啓発費等 8%

平成19年度 複十字シールデザイン

トランプの愉快な世界

平成19年度複十字シールも、画家の安野光雅（あんのみつまさ）氏によるトランプをモチーフに描かれています。子供も大人も楽しく遊べ、幸せな時間をもたらしてくれるトランプの世界が皆様の心を穏やかに、幸福な気持ちにさせてくれるカラフルで温かいデザインです。



問い合わせ先 **財団法人結核予防会静岡県支部**

電話 054-261-2512(代)

住所 〒420-0915 静岡市葵区南瀬名町6-20

e-mail tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

URL <http://www.jatahq.org> (財団法人結核予防会)

平成18年度結核予防リーダー研修会開催報告



「平成18年度結核予防リーダー研修会」を下記のとおり開催いたしました。
159名の参加を得て、時折笑いも起こるなど、受講者参加型の講義もあり、
有意義な研修会となりましたことを報告いたします。

日時	平成19年3月2日(金) 午後1時～4時
会場	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 6階 大ホール
講演内容	講師 財団法人しずおか健康長寿財団 理事長 佐古伊康先生 演題 「自己責任時代の疾病対策」 内容 現代における疾病対策の特徴・問題点などについて
	講師 財団法人結核予防会 事業部資金課長 佐藤利光先生 演題 「複十字シールでコミュニケーションを！」 内容 複十字シール運動を推進する上でのコミュニケーション力の重要性について

図書案内

好評発売中

保健師・看護師の結核展望 88号

3月1日発行 定価 ¥1,995

特集 ①結核の接触者健診の手引き ②最新QFT情報
③アメリカの結核対策最前線—結研スタディーツアーから

結核?! でも心配しないで

平成19年度改訂版

全ページリニューアル 更に使いやすくなりました。

A5判・24頁オールカラー 定価 ¥241

職員紹介

19年度を迎え新たな職員の参加がありました。
よろしくお願いいたします。



常務理事兼事務局長
増田 利男
(ますだ としお)



編集後記

結核予防法を統合した感染症法が改正されたことを受けて、結核予防会は今日における使命と役割を再認識するため、平成19年1月次のような結核予防の重要性を訴えました。

我が国の結核罹患の現状について

- 1 先進欧米諸国より30年の遅れ
- 2 進む患者の高齢化と低減しない若年層の感染・発病
- 3 地域差拡大と特定リスク集団に集中化傾向
- 4 結核に対する関心の低下

今後の必要な結核対策について

- 1 複雑化、質的に変化しつつある結核状況に関する分析・啓発
- 2 高齢者・合併症結核患者への医療供給体制の整備
- 3 集団感染症等に対する健康危機管理システムの構築
- 4 都市と地方の地域格差に対する対応
- 5 多剤耐性結核の治療と対策及び多剤性菌株の集中管理と新たな抗結核薬の開発 (増田 記)

題字：田中隆（元支部職員） 表紙撮影：村木弘知（元県職員）